

文化芸術に関するアンケート調査結果概要

《調査の目的》

本ビジョン策定のための基礎資料とすることを目的として、市内の文化芸術団体の会員、市内の文化芸術イベントに参加した方々等を対象にアンケートを実施しました。

《調査の概要》

1 調査の主な内容

- 文化芸術に関するいわき市のイメージ
- 文化芸術に関する活動状況・内容
- 文化芸術に関する情報共有
- 文化芸術の振興に必要なと思われる取組み 等

2 調査対象者：市内文化芸術関係団体会員、イベント参加者等

3 調査方法：① 関係団体会員に対しては団体に取りまとめ依頼

② イベント参加者にはイベント開催時

③ 郵送配布、回収 等

4 調査期間：令和2年1月～2月

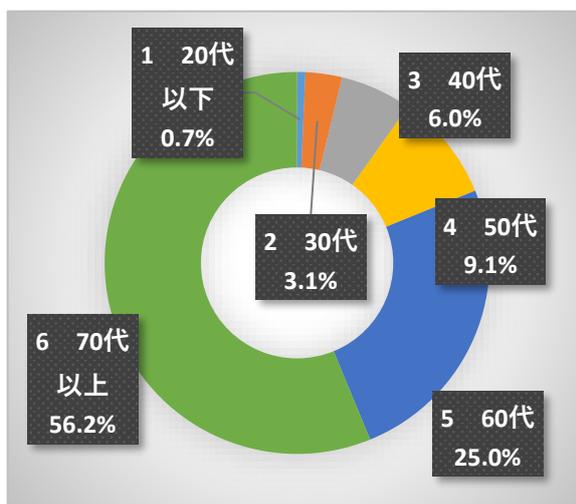
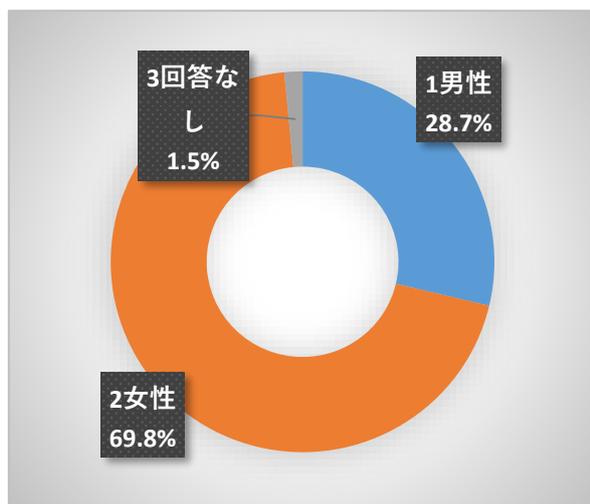
5 配布・回収の状況：① 配布数：1,300件

② 有効回収数：721件

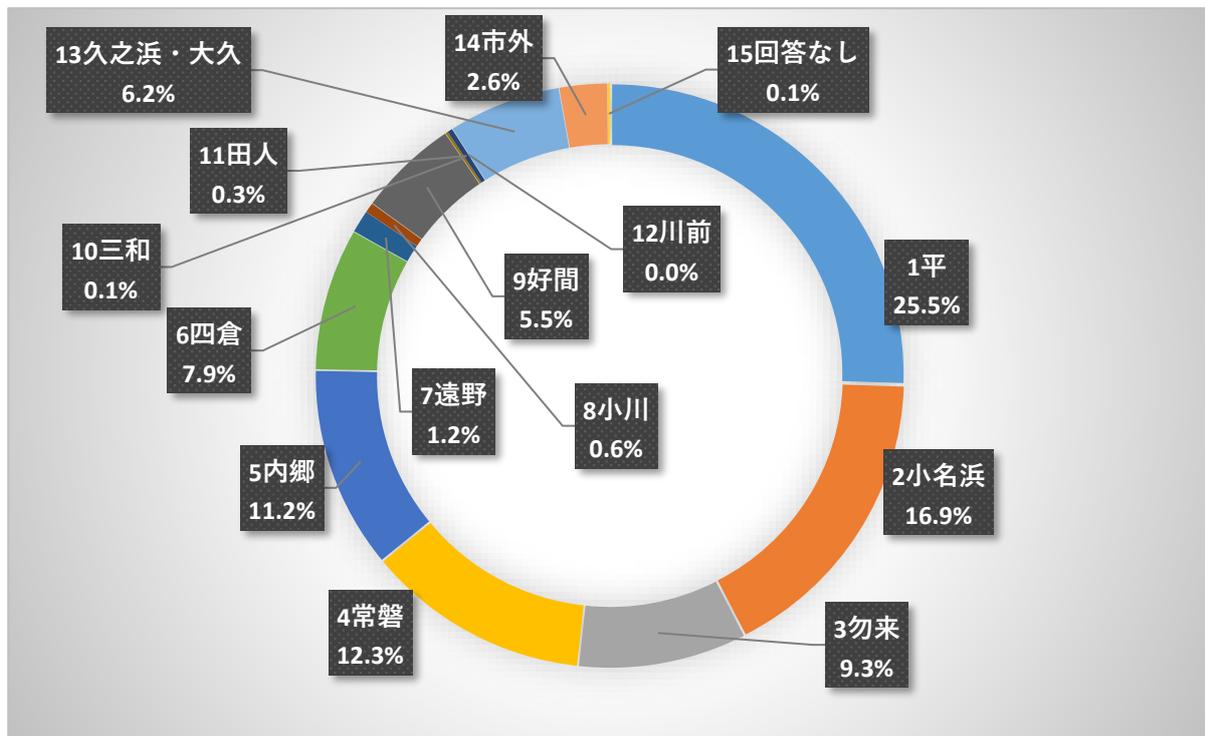
1 回答者の属性

回答者の性別割合は、「女性」が69.8%、「男性」が28.7%で、女性の割合が全体の7割弱程度と、男性の割合の2倍以上であり、女性の回答者割合がかなり高いことがわかります。

回答者の年齢別割合は「70代以上」が56.2%で最も高く、次いで「60代」が25.0%、「50代」が9.1%、「40代」が6.0%となり、60代以上が全体の回答者の8

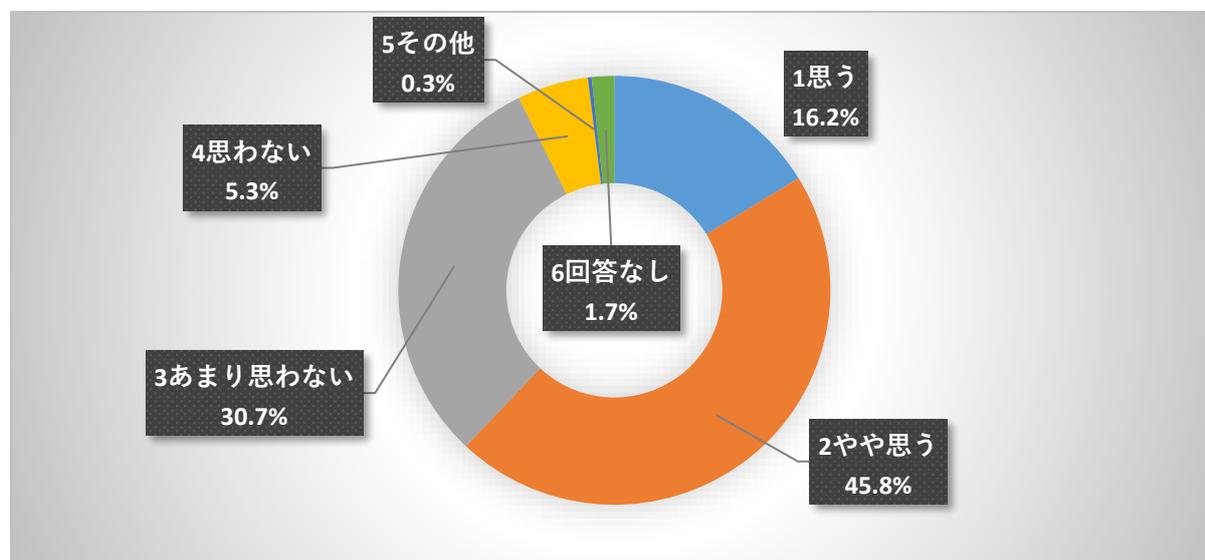


回答者の居住地区割合は、「平地区」が25.5%、次いで「小名浜地区」が16.9%、「常磐地区」が12.3%、「内郷地区」が11.2%、「勿来地区」が9.3%となり、市街化区域（住宅地）の占める面積が多い地域の割合が高く、ある程度人口比率に準じていることがわかります。



2 文化芸術に関する市のイメージ

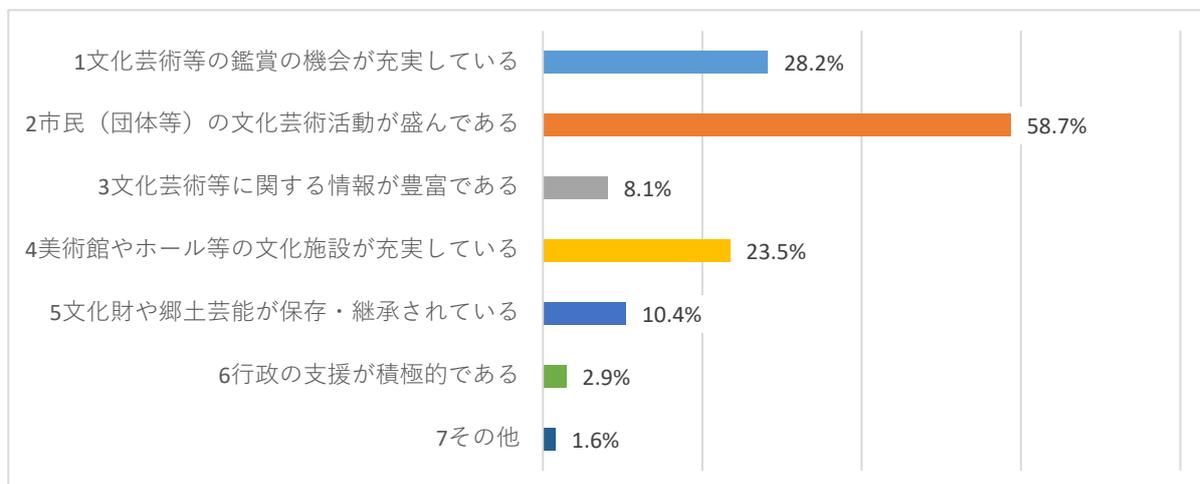
いわき市を「文化芸術の盛んなまち」だと「思う」16.2%、「やや思う」45.8%、は合わせて62.0%、「思わない」5.3%、「あまり思わない」30.7%、は合わせて36.0%となり、過半数以上の方は、いわき市は「文化芸術の盛んなまち」という認識をもっていることがわかります。



3 文化芸術が盛んだと思う理由（複数回答）

盛んだと「思う」（「やや思う」を含む）と回答した人が選択した理由としては、「市民（団体等）の文化芸術活動が盛んである」58.7%、「文化芸術等の鑑賞の機会が充実している」28.2%、「美術館やホール等の文化施設が充実している」23.5%の順となり、市民（団体等）の文化芸術活動が盛んに行われているからだと考えている人が全体の4割を占めています。

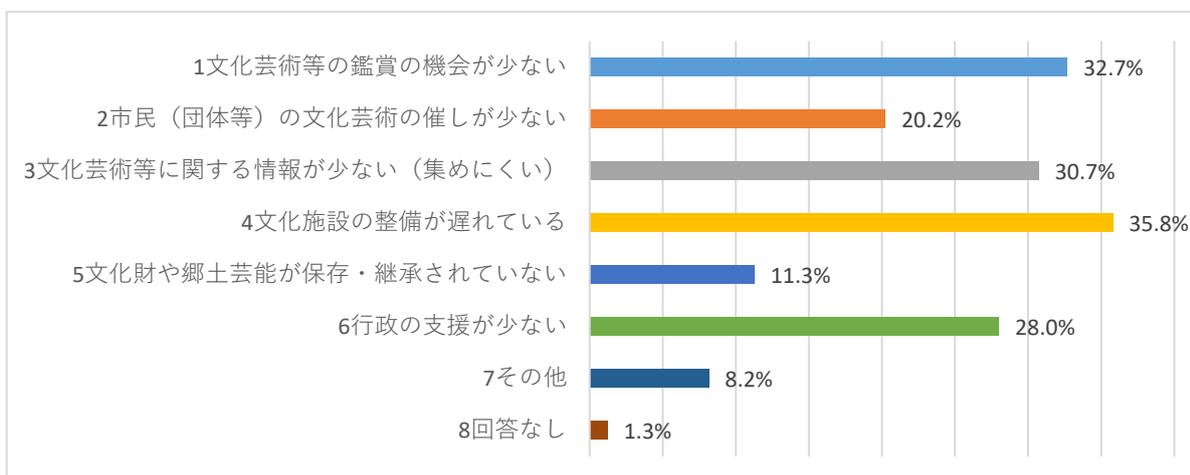
その他の理由として、「盛んであるかどうかはわからないけど、文化芸術団体は一生懸命活動をしている」、「観たい・聞きたい催し物がたくさんある」、「アリオス等が新設されてからそう思うようになった」等の意見がありました。



4 文化芸術が盛んではないと思う理由（複数回答）

盛んだと「思わない」（「あまり思わない」を含む）と回答した人が選択した理由としては、「文化施設の整備が遅れている」35.8%、「文化芸術等の鑑賞の機会が少ない」32.7%、「文化芸術等に関する情報が少ない（集めにくい）」30.7%、「行政の支援が少ない」28.0%と、どれも20%から30%中盤と同程度の数値となり、特に突出した理由はなく、ある程度同数値に理由が分かれた結果となりました。

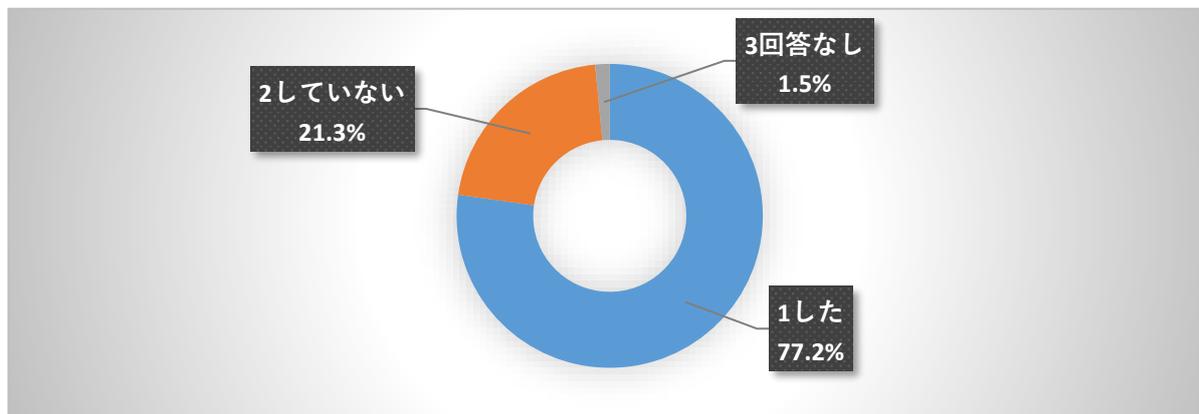
その他の理由として、「文化芸術が身近なものになってほしい」、「地元のプロが活用しきれていない。又は偏りがある」、「若い人にわかりやすい芸術が少ない」、「アリオス以外設備等が悪い」「盛んとまでは言えないが、理解ある人は多い」等の意見がありました。



5 文化芸術の活動について

(1) 文化芸術活動

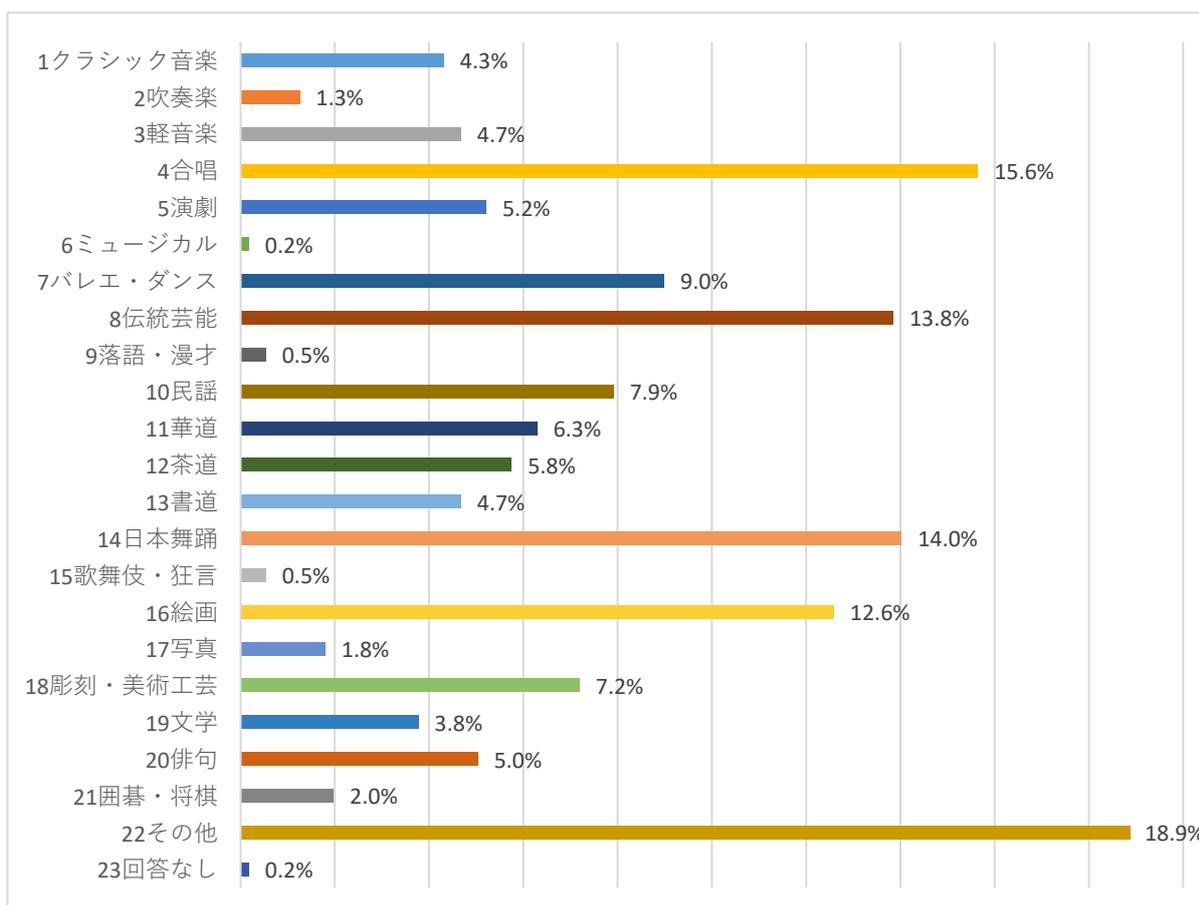
この一年間に文化芸術の「活動をした」人の割合は、77.2%、「活動していない」人の割合は21.3%となり、8割弱の人が何かしらの文化芸術活動を行っていることがわかります。



(2) 活動分野

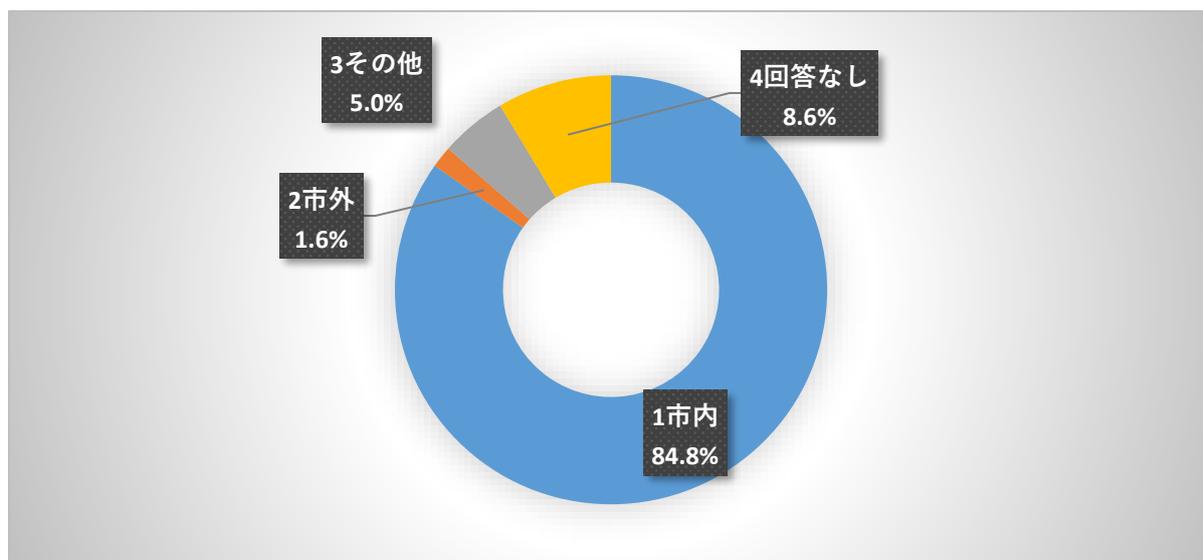
「活動をした」人の主な活動分野は、「合唱」15.6%、「日本舞踊」14.0%、「伝統芸能」13.8%、「絵画」12.6% etcと、特に偏りはなく、様々な分野の文化芸術活動を行っていることがわかります。

その他としては、能、短歌、詩吟、川柳、箏曲、着付け、和太鼓、フラダンス、陶芸、地域活動などの活動を行っているとの意見もありました。



(3) 活動場所

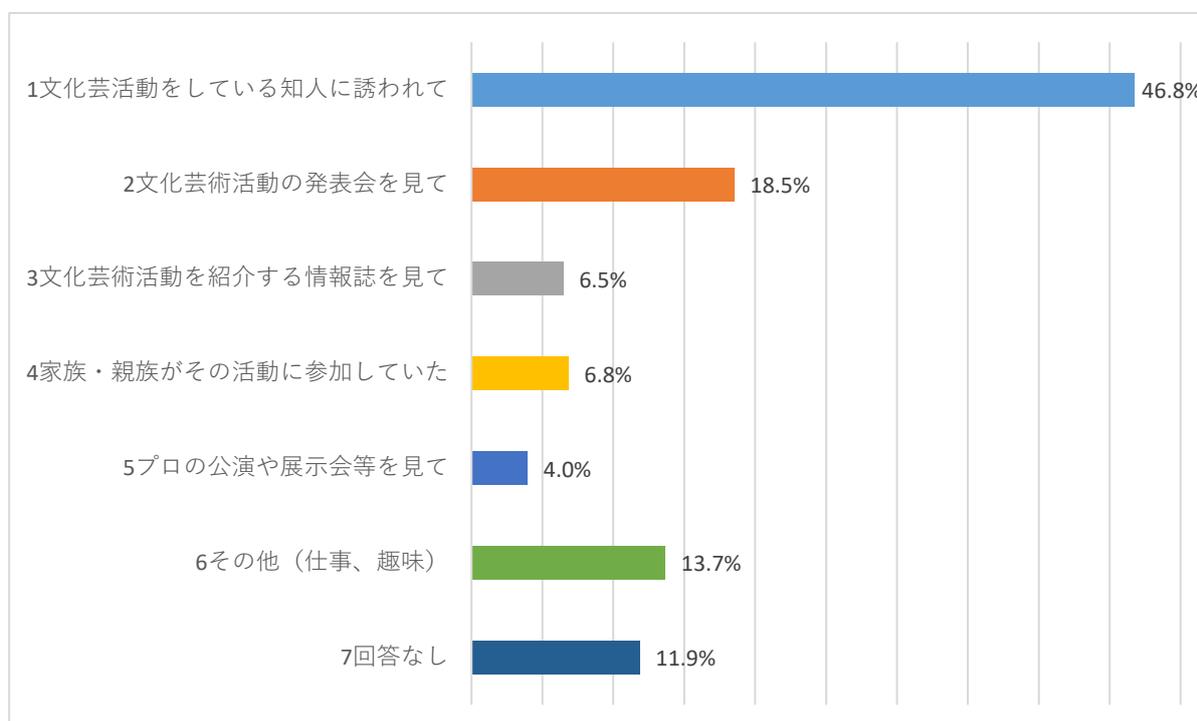
活動場所としては、「市内」と回答した人が84.8%、「市外」と回答した人が1.6%であり、大半の人が市内を拠点として活動していることがわかります。



(4) 活動を始めたきっかけ

活動を始めたきっかけは、「文化芸術活動をしている知人に誘われて」46.8%、「文化芸術活動の発表会を見て」18.5%となり、半数の人は「人との繋がり」において文化芸術活動を始めていることがわかります。

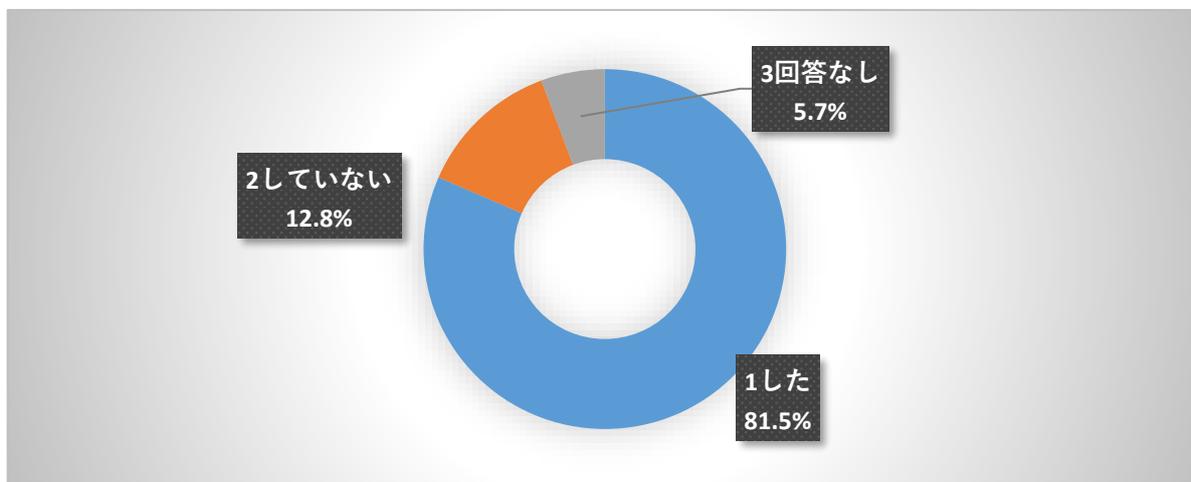
「その他（仕事、趣味）」13.7%の内訳としては、「幼少から活動していたため」「大学の研究・地域活動」「前から興味があった」「子離れし、時間に余裕ができた」「ボランティア活動の中で」等の意見がありました。



5 文化芸術等の鑑賞について

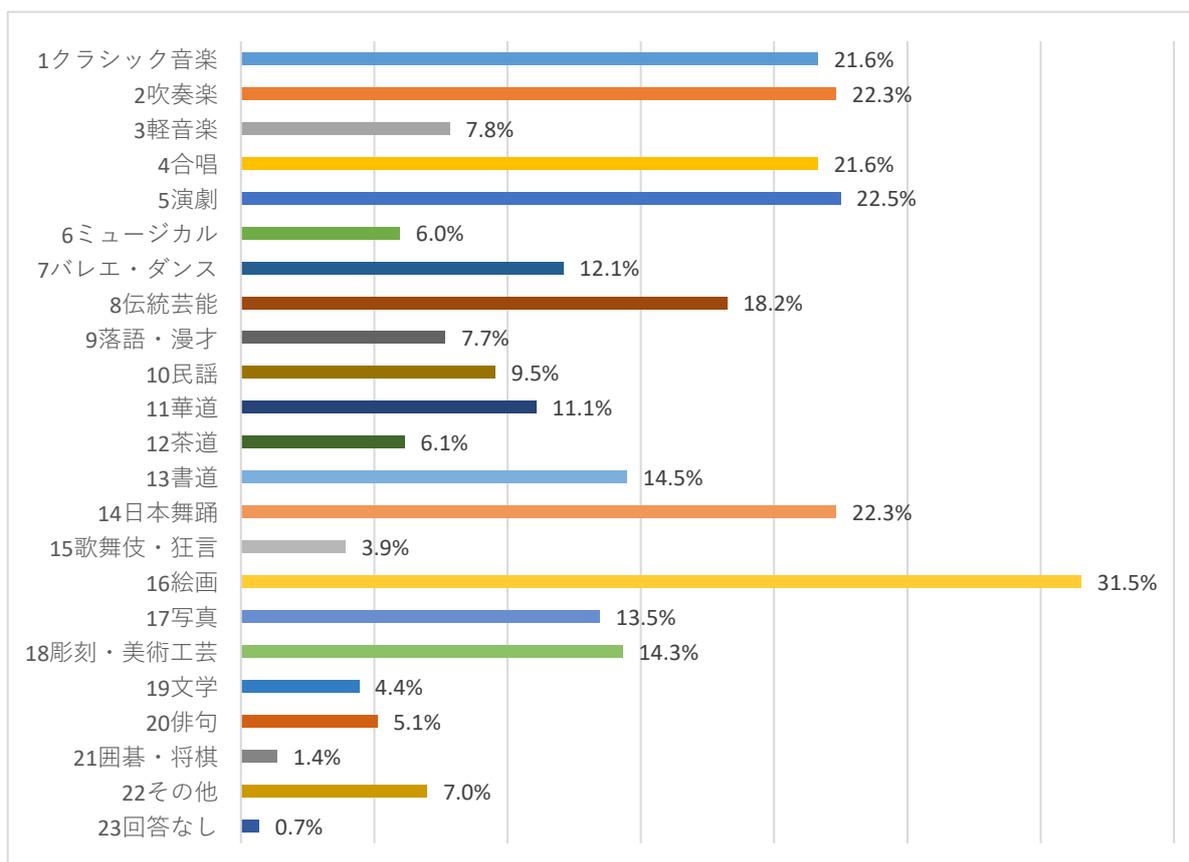
(1) 文化芸術等の鑑賞

この一年間に文化芸術の「鑑賞をした」人の割合は、81.5%、「鑑賞をしていない」人の割合は21.8%で、8割強の人が何らかの文化芸術関連分野の鑑賞を行っていることがわかります。



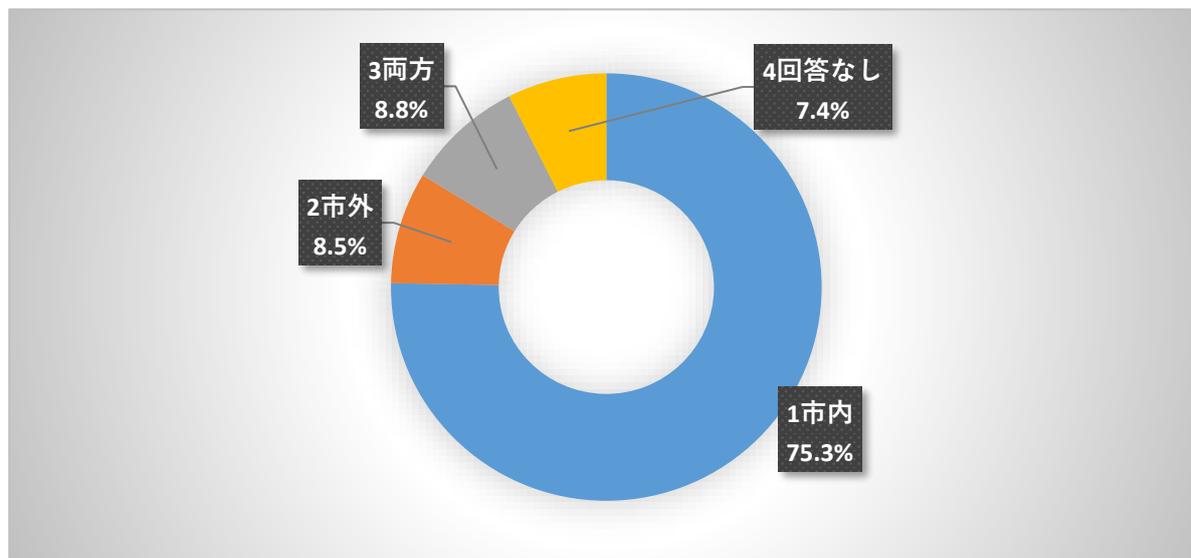
(2) 文化芸術等の鑑賞分野（複数回答）

「鑑賞をした」人の主な鑑賞分野は、「絵画」31.5%、「演劇」22.5%、「吹奏楽」「日本舞踊」が同率で22.3%、「合唱」「クラシック音楽」が同率で21.6%で、音楽関係を合わせると6割強となることから、総体的には音楽関係分野の鑑賞の割合が高いことがわかります。



(3) 文化芸術等の鑑賞場所

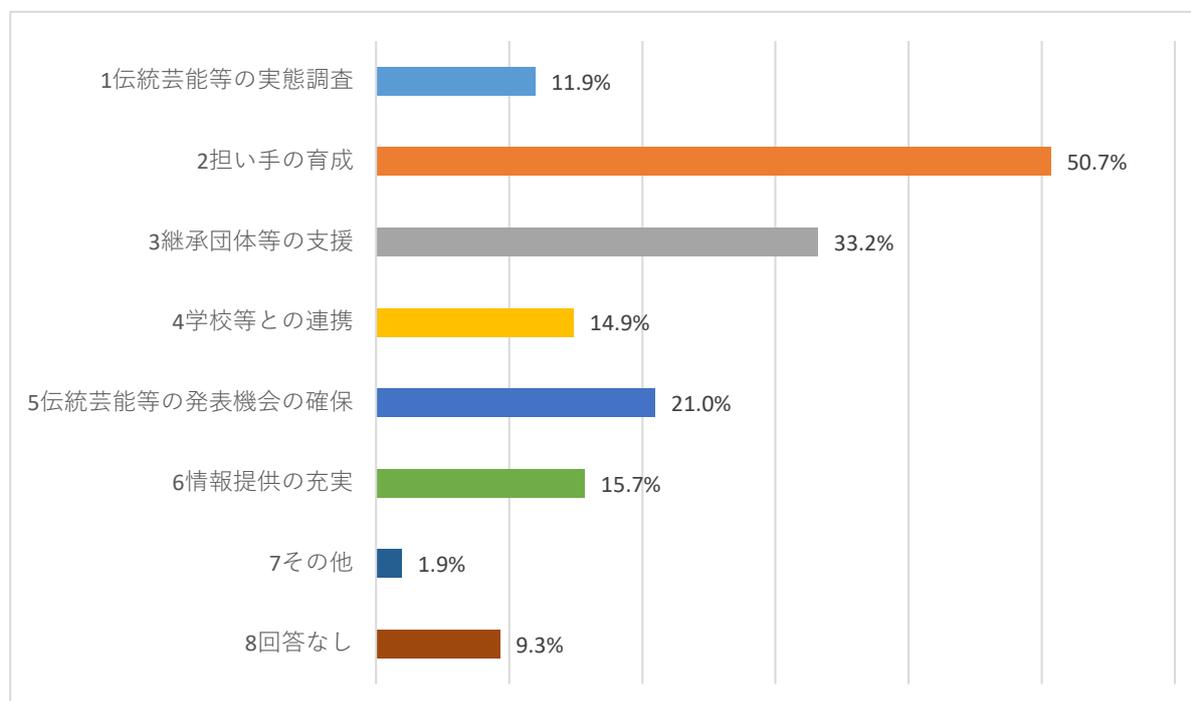
主な鑑賞場所としては、「市内」が75.3%で、市内で鑑賞をしている人が大半です。「市外」、「両方」と回答した「市内」以外の鑑賞場所としては、東京都等の首都圏との意見が圧倒的に多かったですが、郡山市・福島市・会津若松市等の県内との回答も多数ありました。



6 地域の伝統芸能や文化を継承・支援するために必要なこと（複数回答）

地域の伝統芸能や文化を継承・支援するために必要なこととしては、「担い手の育成」50.7%、「継承団体等の支援」33.2%、「伝統芸能等の発表機会の確保」21.0%となり、担い手（後継者）を育成することが重要と考える人が多いことがわかります。

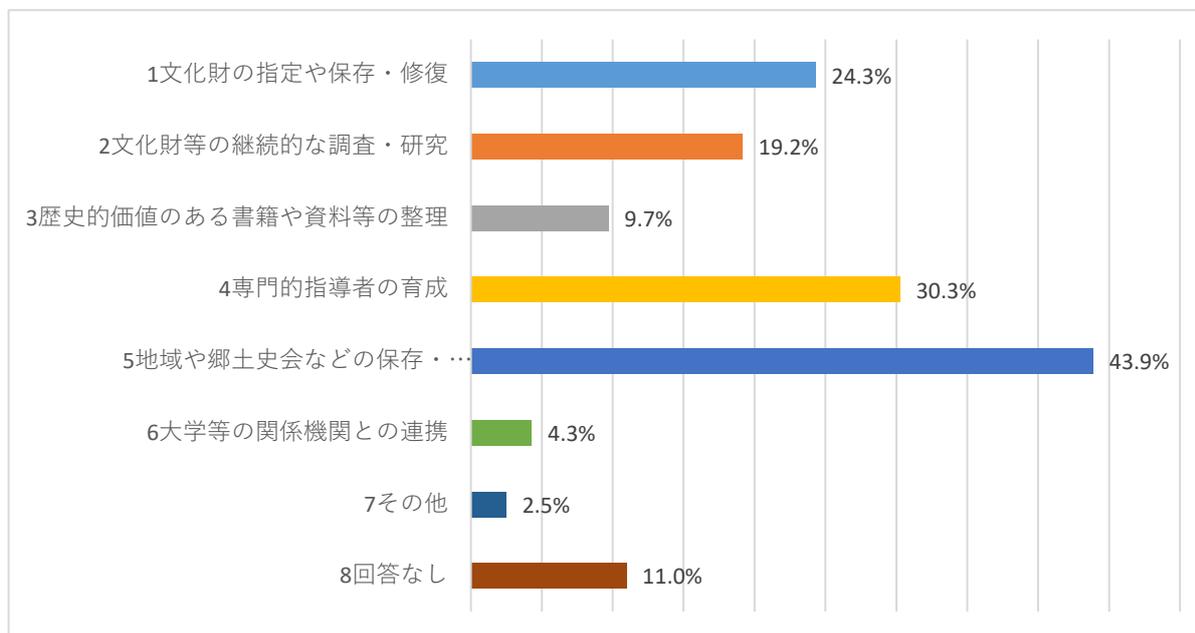
その他の意見として、「情報発信などの知る機会」「姉妹都市との文化芸術交流」「経費的支援（会場使用料等を含む）」などの意見もありました。



7 文化財等を保存・活用していくために必要なこと（複数回答）

文化財等を保存・活用していくために必要なこととしては、「地域や郷土史会などの保存・継承他団体の活動の支援」43.9%、「専門的指導者の育成」30.3%、「文化財の指定や保存・修復」24.3%、「文化財等の継続的な調査・研究」19.2%の順に選択した人が多くなっています。

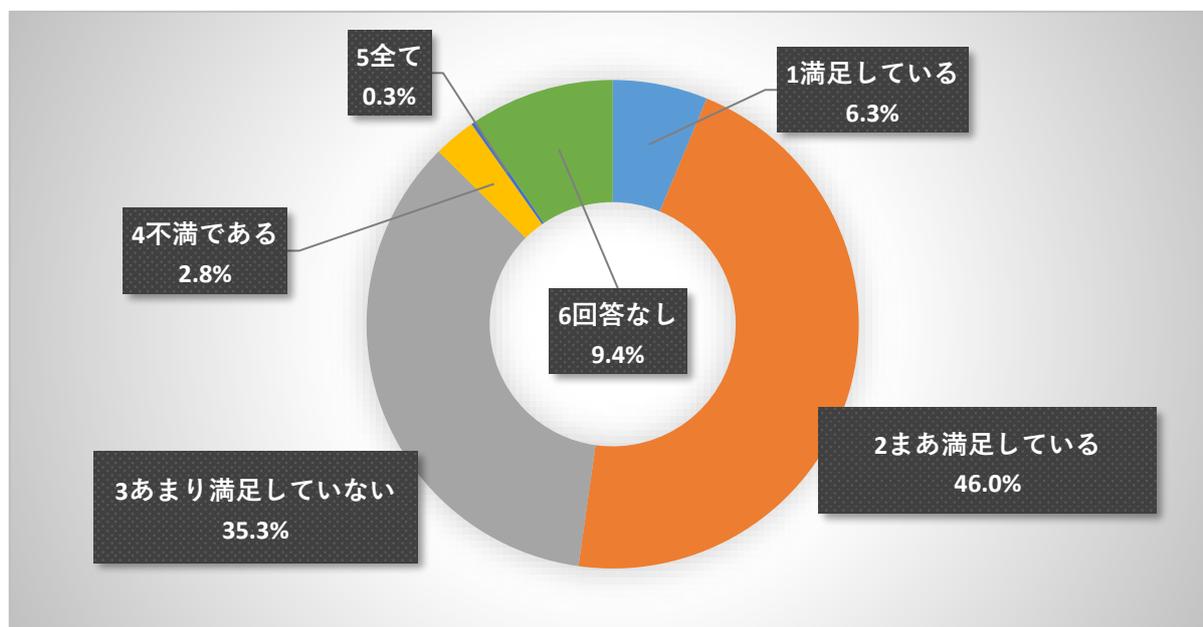
その他の意見として、「博物館・史料館の施設整備」「若者の育成」「教育の現場で継続して教えていくこと」などの意見もありました。



8 文化芸術に関する情報提供について

(1) 情報提供の満足度

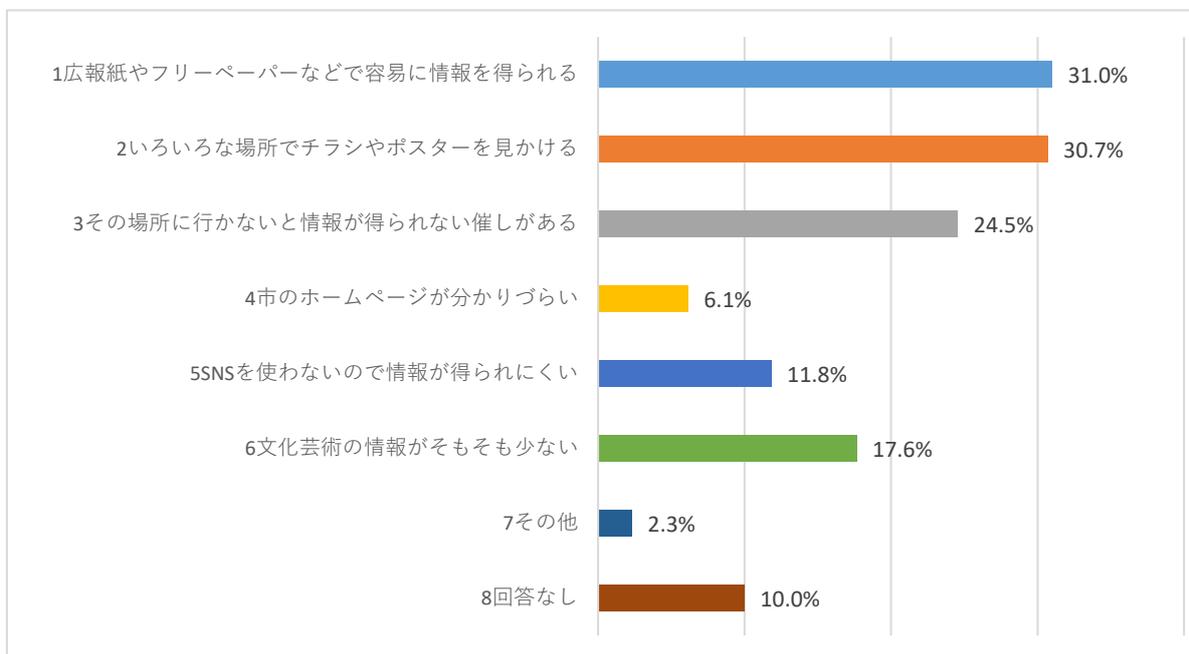
文化芸術に関する情報提供に「満足している」6.3%、「まあ満足している」46.0%で合わせて52.3%、「不満である」2.8%、「あまり満足していない」35.3%で合わせて38.1%となり、過半数の人はある程度の満足度を得ていることがわかります。



(2) 満足・不満足の原因（複数回答）

満足・不満足の原因として、「広報紙やフリーペーパーなどで容易に情報を得られる」31.0%、「いろいろな場所でチラシやポスターを見かける」30.7%、「その場に行かないと情報が得られない催しがある」24.5%、「文化芸術の情報がそもそも少ない」17.6%となっています。

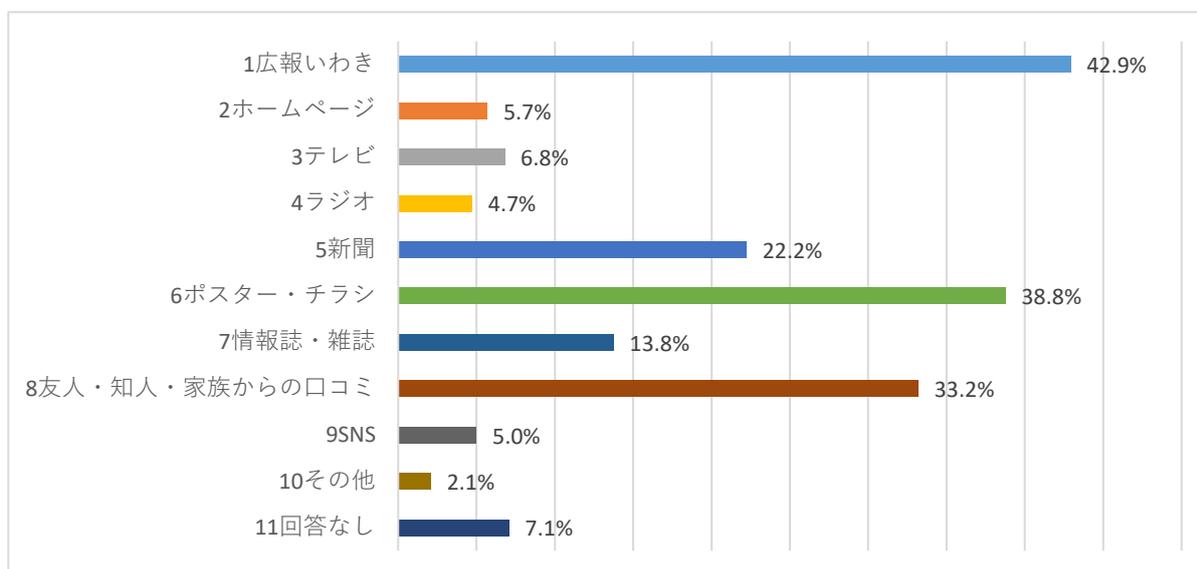
その他の意見として、「情報が偏り特定の分野になりがち」、「アリオス以外の文化センターや市民会館等の情報が入らない」、「まとまった情報収集の場がない」などの意見がありました。



(3) 情報の入手方法（複数回答）

情報の入手方法として、「広報いわき」42.9%、「ポスター・チラシ」38.8%、「友人・知人・家族からの口コミ」33.2%、「新聞」22.2%の順になっています。

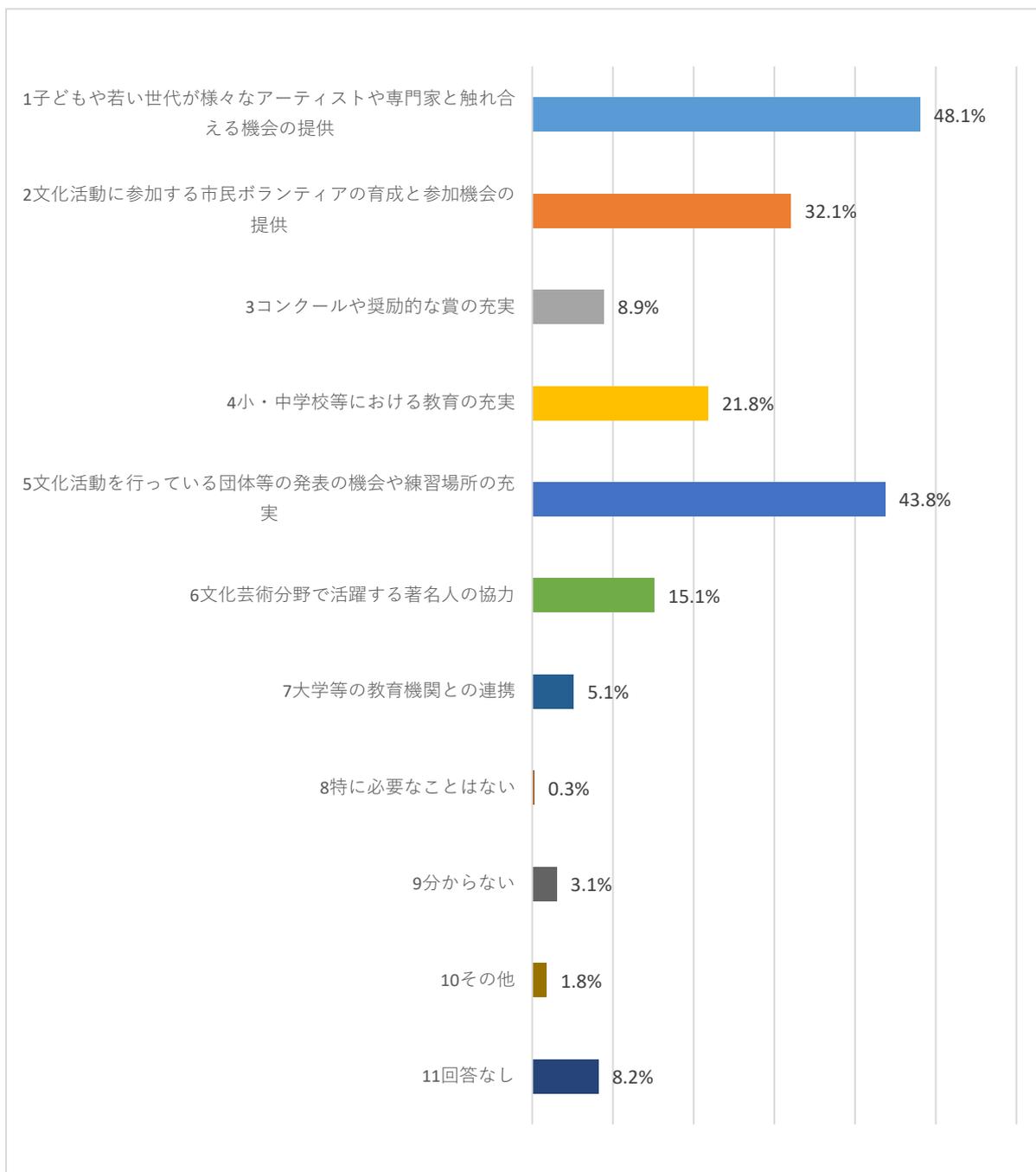
その他として、「アリオスペーパー」、「DM」、「図書館」、「公民館」などがありました。



9 市内の芸術家や文化に関わる人などの育成・支援のために必要なこと（複数回答）

市内の芸術家や文化に関わる人などの育成・支援のために必要なこととしては、「子どもや若い世代が様々なアーティストや専門家と触れ合える機会の提供」48.1%、「文化活動を行っている団体等の発表の機会や練習場所の充実」43.8%、「文化活動に参加する市民ボランティアの育成と参加機会の提供」32.1%、「小・中学校等における教育の充実」21.8%となっています。

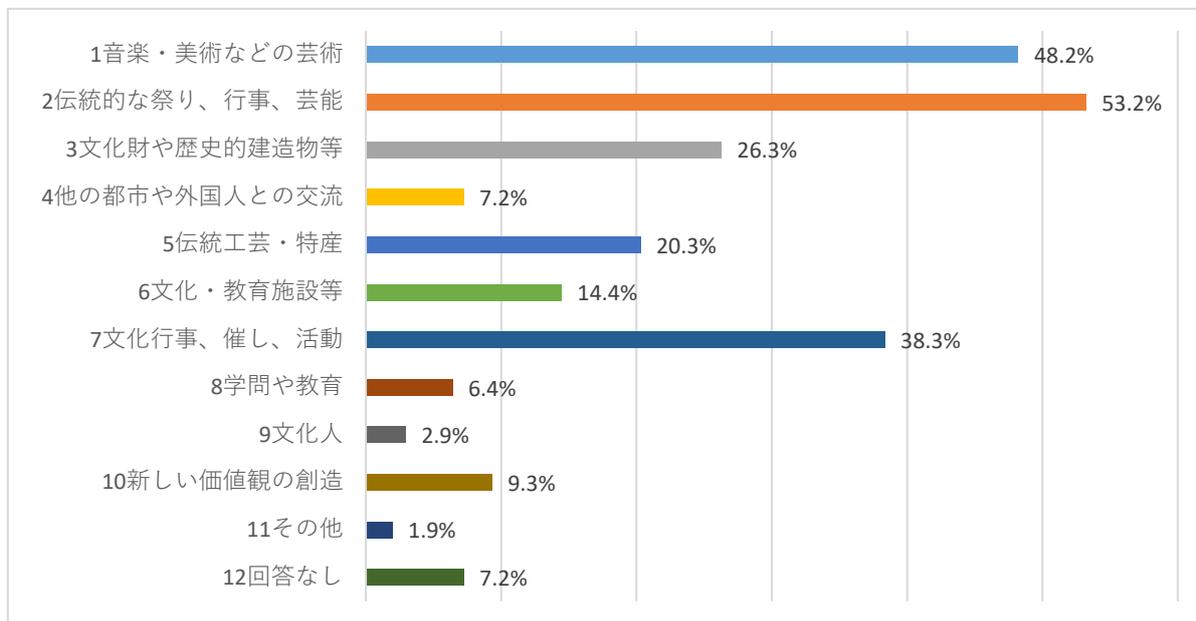
その他「文化活動団体への財政支援」「美術館等で本物の芸術を見ること」「初心者体験の機会」「芸術家を育成した後の受け皿をつくる」「市内の映画関係、文学関係、ギャラリー等、専門家の意見を聞き優れた作品を市民に推し進める」「簡単な手続きで助成支援」などの意見もありました。



10 「文化」という言葉に対するイメージ（複数回答）

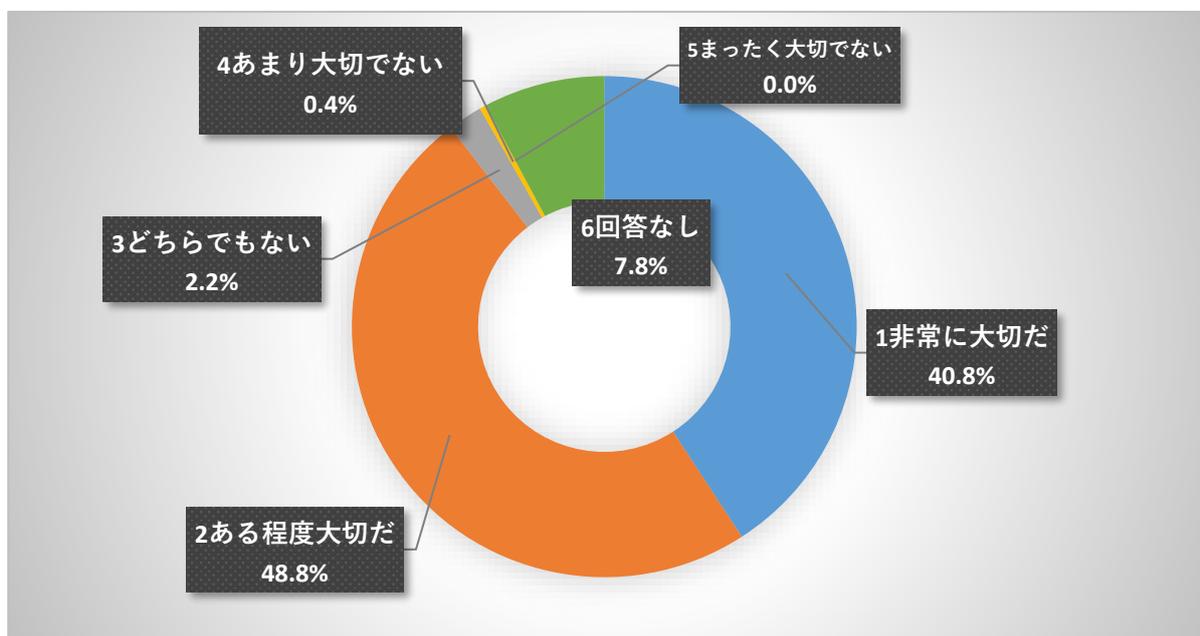
「文化」という言葉に対するイメージは、「伝統的な祭り、行事、芸能」53.2%、「音楽・美術などの芸術」48.2%、「文化行事、催し、活動」38.3%、「文化財や歴史的建造物等」26.3%、「伝統工芸・特産」20.3%の順になりました。

その他「精神的に充実していること」「伝統的なものが暮らしの中に当たり前にあること」「個性の尊重、多様性を認めること」「食文化」「人生を豊かにするものすべて」などの意見もありました。



11 日常生活の中で文化芸術の活動や鑑賞することについて

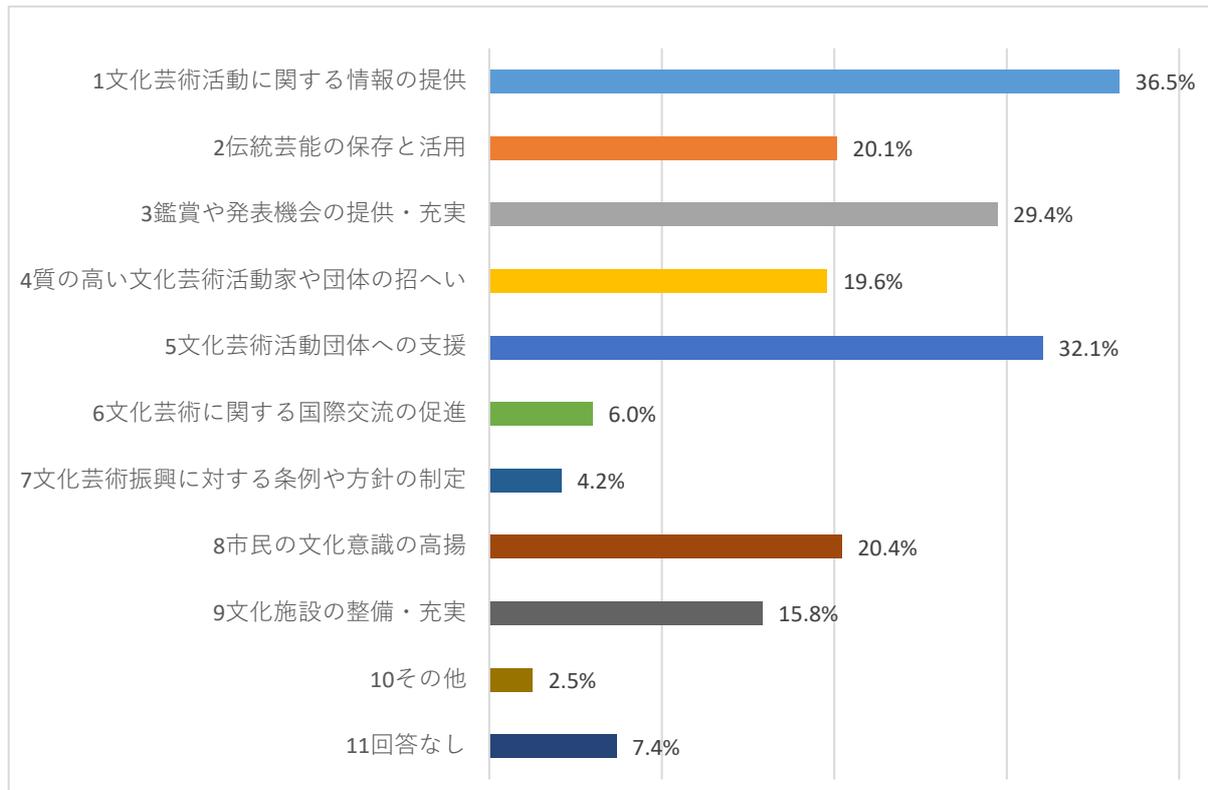
日常生活の中で文化芸術の活動や鑑賞することについて、「非常に大切だ」と思う人は40.8%、「ある程度大切だ」と思う人は48.8%で合わせると89.6%となり、大多数の人が文化芸術活動の重要性について認識していることが確認できます。



12 文化芸術活動を盛んにするために必要な市の取組み（複数回答）

文化芸術活動を盛んにするために市はどのような取組みを行うべきかについて、「文化芸術活動に関する情報の提供」36.5%、「文化芸術活動団体への支援」32.1%、「鑑賞や発表機会の提供・充実」29.4%、「市民の文化意識の高揚」20.4%、「伝統芸能の保存と活用」20.1%となりました。

その他「文化財の基礎調査」、「小中学校等における文化芸術教育の充実」、「アリオス近隣の駐車場整備」、「市の文化意識の高揚」、「会員の高齢化と減少への対策」、「申請手続きの明確・簡素化」などの意見がありました。



《アンケート調査結果から見た現状と課題》

本ビジョンを作成するにあたり、現在、市内において文化芸術活動を行っている人々の生の意見・要望を計画の施策に反映させるため、文化芸術関係者、文化芸術イベント参加者等を対象に市民アンケートを実施しました。

《現状》

いわき市は、市民（団体等）の文化芸術活動が盛んに行われており、文化芸術が盛んな都市だという市民意識があり、文化芸術に関してある一定の満足度が得られており、多種多様な幅広い分野の文化芸術活動が行われています。

文化芸術活動を行っている人の大多数が、市内を拠点として文化芸術活動を行っておりますが、広域である市内においての活動拠点は主に市街地であり、中山間地での活動はほぼ皆無に等しい状態です。

文化芸術関係者においては、活動者は60代以上の女性の比率が非常に高いです。

文化芸術に関する情報提供においては、過半数以上の人がある一定の満足感を得ています。

日常生活の中で文化芸術の活動や鑑賞することについて、9割弱の大多数の人がその大切さを認識しています。

《分析結果から見えてきた課題》

文化芸術が盛んではないと思っている人は、「文化施設の整備が遅れている」「文化芸術の鑑賞の機会が少ない」「情報が少ない」等、特に突出したものではなく、総合的に文化芸術に関する様々な要因が不足していると思っております。意見の中には、実際に不十分であること、単に手法的な問題であるものが混在していることから、内容を十分に精査し、対策を検討していく必要がありますが、総じて「行政の支援が積極的でない」と思われている傾向にあることから、行政としての在り方を明確に示していく必要があります。

文化芸術活動を始めたきっかけについて、「文化芸術活動をしている知人に誘われて」の回答率が圧倒的に多かったことから、人との繋がりが文化芸術活動をはじめのきっかけになっていることがわかります。よって、交流機会の創出を積極的に図り、文化芸術人口の増加に繋げる取組みを推進する必要があります。

鑑賞したり、活動したり文化芸術活動を行っている人は、市内を拠点としている人が大半であることから、市内での文化芸術活動に触れ・親しむ機会の充実や活動の機会・場の創出を図る必要性があります。

地域の伝統芸能や文化を継承・支援するために必要なこととして、伝統芸能や文化を未来に繋ぐための後継者（担い手、継承団体等）を育成し、支援していくことが重要だと考える人が全体の半数を占めていることから、そういった施策に継続して取り組む体制や制度を整備する必要があります。

文化芸術に関する情報提供については、過半数の人がある程度の満足感を得ていることが分かった反面、不満足感を得ている人も4割弱程度おります。その他の意見として、「インスタを活用すれば若い人にも広がりやすい」、「まとまった情報収集の場がない」などの意見もあることから、少しでも満足度を高められるよう、時代・ニーズに合った情報提供方法を検証・検討し、改善していく必要があります。

市内の芸術家や文化に関わる人などの育成・支援のために必要なこととして、「子どもや若い世代が様々なアーティストや専門家と触れ合える機会の提供」との意見が多かったことから、教育委員会等と連携し、触れ合える機会の創出を図る取組みを充実させる必要があります。また、「文化活動に参加する市民ボランティアの育成と参加機会の提供」が次に多い意見としてあがったことから、市民ボランティアバンクなどの設立・運用も検討する必要があります。

文化芸術活動を盛んにするために、市はどのような取組みを行うべきかについては、「文化芸術活動に関する情報提供」と考えている人が一番多い結果となりました。上記でも触れましたが、情報提供については、過半数の人がある程度の満足度を得ていることがわかっておりますが、更に満足度が高まるよう、収集も含め、情報提供の方法を検証・検討し、改善する必要性を実感しました。

次に多かったのは「文化芸術活動団体への支援」でしたが、一概に支援と言っても様々な支援の仕方がありますが、アンケートを通して見えてきたのは財政面での支援を望む声であり、その点も踏まえて、その他どのような支援が必要なのか、またすべきなのかを調査し、支援方法を検討する必要があります。

今回のアンケート調査の対象は、文化芸術に何らかの関わりがある人を対象としたものではありませんが、総じて子どもたちや若い年代、働く世代、高齢の男性などは、日常的に文化芸術に触れ、活動する機会が少ないという結果が見えたことから、そのような人々を取込む施策を検討し展開する必要があります。

なお、ビジョンの策定にあたっては、幅広い見地からの検討を行うこととしていることから、今後、今回のアンケート調査では意見が拾い切れていない若年層・働く世代を対象とした個別ヒアリングを実施する予定です。

《その他自由意見》

- そもそも文化に対する意識が低いように感じられる。児童生徒の段階から文化芸術にかかわる機会を持つような試みが必要。
- 「しきい」を低くすることが重要。
- 文化芸術に若い人達の参加が少ないように思う。
- この地に住んで活動している人が継続して活動していけるように援助し、文化が定着するようにする。
- 私たちは和太鼓の団体です。大きい音がだせる練習場所が少ない。
- 市民の文化芸術の催しが少ない。
- 行政の支援が少ない。
- 文化センターのホールに幕がないので使用できない。
- 公民館での幼少児対象の触れ合いの場の設定等、公民館の活用
- 市民全体の文化的レベルを上げるための「文化施設の整備」
- 美術館で開催される市民美術展の充実
- 市民発のイベントへの助成の充実
- いわき街なかコンサートへの支援
- 街空間で常に芸術に触れることが理想。子どもたちにも自然と芸術への理科が深まる。
- 行政からの支援が少ない。
- 情報を市内一円に知らせてほしい。
- 子ども時代から一流に触れる環境整備
- 郷土芸能継承は人口減少で難しい。映像で保存するしかないと思う。
- 文化活動団体への財政支援。
- 文化芸術、伝統芸能等、発表・展示の場を増やし、若者への関心向上とともに、言いつたえていく必要があると思う。
- 市内には芸術家、作家がたくさんいるのに、どういう人が何の活動をしているかの情報が少ない。
- 市政50年を過ぎ、何がいわき市の文化か見直すべきではないか
- 施設等の駐車場の整備と交通の便の充実
- 最近、吹奏楽やコーラス、フラダンス、あらゆる面での意識が高まっていると思うので支援を充実してほしい
- 広範囲ということも大きい施設の数も少なすぎるし、昔のまますぎる。情報の提供に偏りがある。
- 文化芸術が特別なものとかかわらないで全市民の中にゆたかにバランス良く日常の中に心の中に入っている様ないわき市の心の文化になればいいと思う
- 会場や施設まで出かけなくても（高いチケットを買わなくても）町の中で身近にふれ合える芸術や美術、合唱などがあると嬉しい
- 芸術が地場産業としてきちんと成り立つ仕組みがほしい
- 子どもたちがいろいろな文化に触れる機会を作ってほしい
- 地域的な差がある。近くでいろいろなものを見聞きたい
- 地元の個人・小グループの活動を育てる、支援する姿勢と仕組みがほしい

＜その他自由意見＞

- 展示する施設が限られていて思うように借用（発表展示）ができない。芸術の展示施設を増やしてほしい
- 文化センターの施設整備をして、もっと使いやすくしてほしい
- 知名度の低い希少的芸能にも積極的にスポットをあてて欲しい。発表の機会や紹介などをお願いしたい。
- 吹奏楽が東北一盛んないわき市であるが、学校行事等にあまりにも無条件で使用させていないか（特にアリオス）
- 幼少期から文化芸術がもっと身近なものと感じられる環境であればハードルも低くなり、市全体が盛んになるのでは
- 市内の様々な文化活動団体を結び付けコラボレーションを生み出すきっかけづくりに注力してほしい。文化活動のコンシェルジュとしての役割に期待。
- 文化は言葉に出来ない部分が多い。それを行政に求めるのではなく、いわきに合った文化創造で出来ればいいのでは。
- 公民館の充実がほしい
- 地域にある伝統文化を発掘し、その地域で保存活動をしている人たちと連携し、学校活動や公民館活動とも連携し継続できるものにしていく仕組みを作って欲しい。そのために専門家の指導も必要だし、それを理解し活動しようとする人を増やし、継続していけるよう支援する仕組みを作れば、これから先文化的な地域になっていけると思う。
- 高齢社会を生きるものとして、どこに行くにも公共交通機関の充実を考えて欲しい。公共交通機関が充実すれば、もっと充実した文化芸術活動ができる。
- 文化とのふれあいは小さい時の感動が大きく心に残る。その思いをたくさんの子どもたちに体験させて心をつくることを保育園・幼稚園、小学校と地域がつながって作っていけるシステムを考えてほしい。
- 各地区にも、文化芸術の催し又は鑑賞が気楽に行けるような設備が欲しい。
- 体の不自由な人、高齢者が利用しやすい施設整備や参加しやすいイベントを考えてほしい